

事業者行動(計画・変更計画・報告)書

2025年7月11日

(宛先)  
滋賀県知事

提出者  
住所(法人にあつては、主たる事務所の所在地)  
滋賀県東近江市鯉江町200-1

氏名(法人にあつては、名称および代表者の氏名)  
株式会社チェリオコーポレーション 滋賀工場  
執行役員 製造部 部長 富田剛司

滋賀県CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりの推進に関する条例

第25条第3項→ 第25条第4項  
第27条第1項→ 第27条第2項において準用する同条例  
第26条第1項  
第27条第2項において準用する同条例第26条第1項

第25条第4項 の規定に基づき、 [事業者行動計画を 策定 (変更) 事業者行動報告書を作成] したので、提出します。

事業者の氏名 (法人にあつては、名称および代表者の氏名)	株式会社チェリオコーポレーション 代表取締役社長 菅 大介
事業者の住所 (法人にあつては、主たる事務所の所在地)	京都府京都市南区上鳥羽石橋町237番地

1 事業所の概要

事業所の名称	株式会社チェリオコーポレーション滋賀工場					
事業所の所在地	滋賀県東近江市鯉江町200-1					
主たる事業	日本標準産業分類 細分類番号	1	0	1	1	※ 産業分類・細分類名称を記載 清涼飲料水製造業
事業の概要	ライフガード500ml、ジャングルマン500ml、日本のサイダー500ml 麦茶500ml、天然水600ml他					
従業員の数	81	人	作業時間	24	時間/日	
該当する事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量が、年間1,500キロリットル以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 従業員数が21人以上であつて、エネルギー起源二酸化炭素以外の温室効果ガス排出量が、二酸化炭素換算で年間3,000トン以上の事業所を県内に有する事業者 <input type="checkbox"/> 任意提出事業者					
主要な設備	ボイラ	5	台	熱源設備	21	台
	コンプレッサ	6	台	空気調和設備	6	台
				照明設備	2000	台
				その他		

2 計画期間(および報告対象年度)

計画期間	開始年度	2023	年度	報告対象年度	2024	年度
	終了年度	2025	年度			

3 計画の(内容・実施状況)

計画の(内容・実施状況)	別添のとおり
--------------	--------

注 用紙の大きさは、日本産業規格A列4番とします。

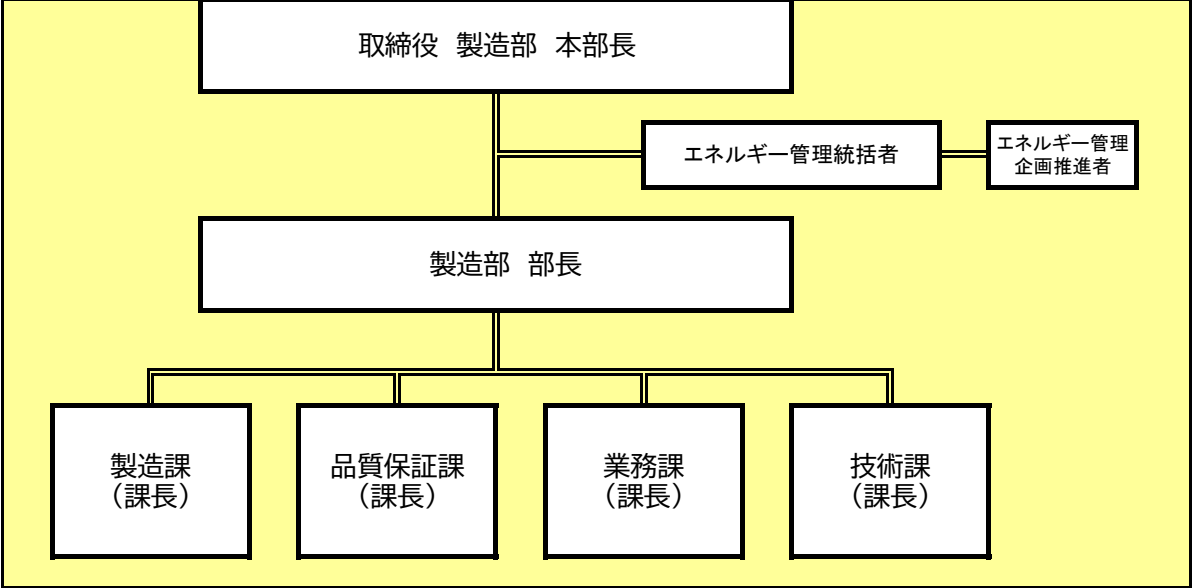


1 CO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組に関する基本的な方針

【株式会社チェリオコーポレーション滋賀工場】は、自社の食品安全方針に基づき、安全安心な製品を提供し、同時に低炭素社会づくりに寄与して参ります。

- ①環境に配慮した商品の提供に努めます。
- ②継続的な環境負荷低減活動の推進に努めます。
- ③廃棄物の削減と再資源に努めます。
- ④工場敷地内の緑地活動に取り組みます。
- ⑤グリーン購入を考慮して参ります。
- ⑥トップランナー対象品を精進いたします

2 取組の推進体制



3 これまでに取り組んできたCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに係る取組

敷地内一部を緑地化。  
 事務用機器を省電力モード設定。  
 照明器具をLED化。  
 使用頻度の少ない照明は、人感センサーによる点灯制御。  
 燃焼排ガスを利用して管内を流れるボイラー給水を予熱させ、熱効率が1%上昇するとされているエコマイザーを搭載した高効率なボイラーを採用。  
 コンプレッサーをインバーター制御し、効率よく運転。  
 生産機器用チラー設備は、設定温度により、台数を制御し、負荷が少ない時は運転台数を停止する。  
 クーリングタワー冷却水の温度を低下しやすくするために、クーリングタワーを遮熱膜で囲った。  
 デマンド値の超過前に、発報するデマンド管理システムを導入。  
 空調用チラー設備では、季節変動に合わせて台数制御で運転。  
 事務エリアの窓に遮熱フィルム及びブラインドで室温の上昇抑制。

再生可能エネルギーの利用等に関する取組として、2023年度より以下の取組を実施。  
 ・工場の屋根に太陽光発電設備を設置し、自家消費を実施。

(第2面)

4 自らの温室効果ガス排出量の削減に向けた取組

(1) エネルギー起源CO<sub>2</sub>排出量の削減に向けた取組の内容等

	取組項目	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	設備導入	自家発電機器、太陽光パネルを導入	2023年～	継続実施中
2	運用改善	蒸気ラインのスチームトラップ、減圧弁など定期的な保守点検実施	都度	継続実施中
3	運用改善	空調温度を夏季(冷房:25℃、暖房:23℃)に設定し運用	2023年～	継続実施中
4	運用改善	スチームトラップの更新(計画中)	2024年度	2024年度計画 →随時更新予定
5	設備導入	空気圧縮機の交換(計画中)	2025年～	2024年度計画

(2) エネルギー起源CO<sub>2</sub>以外の温室効果ガス排出量の削減に向けた取組の内容等

	温室効果ガスの種類	実施計画		実績報告
		取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	除外装置(排ガス処理装置)を設置し、無害化		継続実施中
2	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	排水処理施設から出る汚泥(産業廃棄物)を堆肥化し、環境負荷を軽減する		継続実施中
3	非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	生産工程で出る動植物性残渣(茶カス)を堆肥化し、動物の飼料としてリサイクルしている。		継続実施中

(3) 上記の取組により達成しようとする目標および目標の進捗に対する自己評価

取組目標および目標設定の考え方	目標の進捗に対する自己評価
<p>上記(1)の取組みや製造数、製造稼働率により、2023年度を基準年度とし、以下の数値目標の達成を目指します。</p> <p>『原油換算値/生産数量(本)』で毎年1%削減。</p> <p>※ 原単位の考え方は以下の通り 温室効果ガスの排出量は生産数・品種の増減に左右される為、原単位指標を生産量に設定。</p>	<p>【2024年度】 自家発電設備の運用により、再生可能エネルギーを発電し、発電量分を消費できた。</p> <p>生産数量が2024年度は、2023年度に比べ、減少。</p> <p>停電、瞬低により機械停止。 プリフォームを生産する第0工場が、稼働率がアップした。</p>

(4) 温室効果ガス排出量等の実績

	計画開始年度前年度の実績	実績報告					
		(2023)年度	(2024)年度	( )年度	( )年度	( )年度	
原油換算エネルギー使用量	kL	4,232	4,571	4,521			
温室効果ガス総排出量	t-CO <sub>2</sub>	6,132	7,839	8,160			
エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	6,132	7,839	8,160			
非エネルギー起源CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
CH <sub>4</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
N <sub>2</sub> O	t-CO <sub>2</sub>						
HFCs	t-CO <sub>2</sub>						
PFCs	t-CO <sub>2</sub>						
SF <sub>6</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
NF <sub>3</sub>	t-CO <sub>2</sub>						
エネルギー等原単位の推移		0.05431	0.05174	0.05117			

備考「温室効果ガスの種類別の排出量内訳」欄については、事業者行動計画の提出義務の要件に該当しない温室効果ガスの排出量は、記入する必要はありません。

(第3面)

5 再生可能エネルギー等の利用に関する取組

(1) 再生可能エネルギー等の利用に関する取組の内容等

■ 計画最終年度までの取組の内容等

	実施計画		実績報告
	取組の内容	実施スケジュール	取組の実施状況
1	倉庫棟屋根へ太陽光発電設備の運用	2023年1月運用開始	運用中
2			
3			
4			
5			

■ 中長期的な取組の内容等

	取組の内容
1	関西電力株式会社と20年間契約を行い、太陽光発電設備を運用
2	
3	
4	
5	

(2) 所有する主な再生可能エネルギー設備

太陽光	704 kW	水力・小水力	kW	地熱	kW
太陽熱	kW	バイオマス	kW	その他 ( )	kW
再エネ設備を効率的に利用する設備の導入実績					

(3) 再生可能エネルギー電気設備での発電量および自家消費量の実績

	計画開始年度 前年度の実績	実績報告				
		(2023)年度	(2024)年度	( )年度	( )年度	( )年度
再エネ電気設備での発電量	千kWh	1,207	1,169			
上記のうち自家消費量	千kWh	1,205	1,166			

(第4面)

6 事業活動を通じた他者の温室効果ガスの排出削減によりCO<sub>2</sub>ネットゼロ社会づくりに貢献する取組

(1) 取組の内容およびその実績

取組の内容等	取組の実施状況
① 制御盤用、盤クーラーをフロン冷媒品から、ノンフロン冷媒品(インバータ式)に随時、更新中。  ② スチームトラップの交換を間欠式タイプから省エネ型タイプの常時排出式に交換し、蒸気漏れ量の減少に取組んだ。	①電磁開閉式→インバータ式に変更(6.33t)  ②2024年5月に検証を行い、排出量の削減が確認できた為、交換を随時実施。(886t)
	CO <sub>2</sub> 削減貢献量
	892.33 t-CO <sub>2</sub>

(2) 上記の取組により達成しようとする目標および目標設定の考え方

目標および目標設定の考え方
① 制御盤クーラー残台数14台を、2年計画で更新予定。  ② 生産ラインのスチームトラップ63台のうち、10台更新。残り53台更新計画中。

(3) 上記の取組にかかる目標の進捗に対する自己評価およびCO<sub>2</sub>削減貢献量の算出根拠

目標の進捗に対する自己評価
CO <sub>2</sub> 削減貢献量の算出根拠
制御盤クーラー 冷媒量4430g(9台)×1430(温暖化係数)→6,334,900g→6.33t削減 スチームトラップ ①7.68kg(蒸気漏洩削減量)/H×24H×300/日=55296kg ②4.75kg/H×24H×300/日×10台=342000kg (①55kg+②342kg)×45.00(1㎡当りの発熱量)×0.0136(排出係数)×44/12=886t-co <sub>2</sub>